

## 並行在来線探求委員会計画

委員長 高橋 慎太郎  
副委員長 市村 亮一  
副委員長 大島 正寛  
運営幹事 池本 康史  
会計幹事 小林 啓一

### <基本方針>

我が地域では北陸新幹線開通後、並行在来線は第3セクターへ移行されます。先進事例を見ても自治体の金銭的負担増による運行本数の減少や廃線も考えられます。これは交通弱者と呼ばれている方たちにとって死活問題となり、駅を中心に生活を行っている方たちにとっても大変厳しい状況です。そのような中、並行在来線の現状を的確に検証し、移行前だからこそ出来る自由で独創的な発想の実現を模索しながら、新たな可能性を実践し結果を次に繋げる事が、今後の地域と共存する並行在来線に必要なと考えます。

当委員会では地域を走る並行在来線について、まずこの問題に取り組む沿線の行政機関や関係諸団体と理念を共有し、協力を得ながら連携を深めます。次に本来の利用目的である地域間を結ぶ移動手段としての運用に着目し、移動速度や利用時間帯等を含めた実用面において、より利用者のニーズに応える型で新たな手段を模索します。更に沿線地域の持つそれぞれの特性を活かしながら、点である地域を線で結ぶことで各地域の魅力を相互で共感することの出来る活用法を見直し、地域間交流の増加といった側面からの可能性を見いだします。また通常の利用目的とは違う形に視点を変えながら、列車自体を使用し乗車しなければ分からない付加価値を付ける事で、新たな利用者の獲得に繋がるような独創的な企画を提案します。そして路線には欠かせない各地域に点在する駅舎に着目し、地域コミュニティの促進や地域の発信等の場として活用することにより、駅を中心とした交流の機会を創造します。最後に上越JICが長年携わっている組織体へ積極的に参画をおこなう中で、JICならではのネットワークを活かしながら、相互に協働し連携を図り、その上で当委員会が主体となって実践的且つ広域的な活用方法を探求します。

移行前に独創的で広域的な事業を探求し実践することで、検証や想定ではない可能性を現段階での並行在来線問題に反映させる事が重要です。それは今後の存続の是非を含めた議論に先進事例として一石を投じることで、今後の地域内に対し次への運動の一助となり、更には地域全体の問題へと波及することで地域と共に歩む並行在来線となります。

### 委員会職務分掌<事業内容>

1. 駅や周辺商店街との協働事業
2. 並行在来線を使った実践的な事業
3. R I N X - 4 への参画

#### 4. トライネットへの参画